

令和2年度 大阪府立交野高等学校 第3回 学校運営協議会 議事録

日時：令和3年1月26日（火）（新型コロナウイルス感染症拡大防止により書面開催）

出席者：安松 秀、吉田 巖、小林 毅、森脇 正子、古賀 栄一、大矢 耕平（以上委員6名）

文書を事前に送付し校長より電話にて聞き取り

●協議の内容

① 「令和2年度 学校経営計画及び学校評価」(案) について

1 確かな学力の育成

(1) 教科指導の充実による学力の向上

- ・教員アンケート「授業において、指導方法の工夫改善に努めている」に100%の教員が肯定的に回答していることは、極めて立派で、学校教育活動の要である授業の充実に全教員が真摯に取り組んでいることが伺える。
- ・生徒アンケート「授業が楽しくわかりやすい」と「理解度に応じて補習や講習が行われている」の各々の肯定（約54%）と否定（約45%）がほぼ同数であることについて、二つの質問の関連性を含めて分析・検討の必要性を感じる。

また、「楽しくわかりやすい」という項目を「わかりやすい」とし、明確に授業の質を問う方が良いのではないかと。

(2) 進路指導の充実

- ・希望進路達成率や生徒の満足度の高さ及び生徒の進路に関するアンケートに肯定的意見が多数であることは、生徒の能力、興味、関心など一人ひとりに応じた適切な進路指導が3年間を見通した進路指導計画に基づき円滑に実施されているものであると考えられる。

2 豊かな人間性の涵養

(1) 特別活動や部活動等での自主性、協調性の育成

- ・生徒の行事に対する満足度（85%）の高さは、めざす学校像にある生徒の育成につながることを期待できる。
- ・部活動について、90%の保護者・生徒が「部活動は活発」と回答していること及び部活動70%の加入率は、活力ある学校の指標といえる。
- ・部活動時間に関して、生徒及び保護者アンケートの自由記述の内容から、部活動のガイドラインを考慮しながら対策を講じる必要性がある。

(2) 基本的な生活習慣と規範意識の醸成

- ・遅刻者数が、一日当たり平均5.2人という状況は熱心な遅刻防止指導の成果といえる。
- ・生徒アンケート「学校生活についての先生の指導は納得できる」「将来を考えると、校則はほぼ適切だと思う」は共に肯定が約6割、否定が約4割及び保護者アンケート「学校の生徒指導の方針に共感できる」肯定8割、否定2割の結果から、基本的な生活習慣や規範意識の醸成に関する必要性・重要性について生徒・保護者の一層の理解を図る必要性と、生徒・保護者の実態に即した指導内容・指導方法等のフィードバックの必要性を感じる。

3 生徒支援の充実

(1) 教育相談体制の充実による適切な支援

- ・生徒アンケート 13「親身になってくれない気がした」が昨年比-2.3 ポイントは良い傾向と評価する。
- ・生徒・保護者共に「いじめなど生徒が困っていることがあれば、真剣に対応してくれる」に否定的な回答が約2割であることについて、どのように評価するか、場合によって大きな課題になる。

(2) キャリア教育の推進

- ・生徒アンケート 14「将来の進路や生き方について考える機会がある」に90%が肯定的に回答し、保護者アンケート 4「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の80%の肯定的回答は、キャリア推進教育が適切に実施されていることを象徴している。

(3) 探究活動の充実

- ・地域や企業と連携した探究活動の目標回数が僅かながら達成できなかったとしても、教育活動がコロナで制約される中、最善を尽くしたと評価できる。

4 学校力の向上

(1) 教職員の力量の向上

- ・全ての教員が「授業において、指導方法の工夫・改善に努めている」に肯定的に回答していることは、授業の充実が学校の最重要課題の一つであることを踏まえ教育活動の充実度が伺える。
- ・コロナ対応が追われる中にもかかわらず、OJT 勉強会や教職員研修の回数が維持または増加したことは、教員の力量向上に対する意欲と情熱が伺える。

(2) 働き方改革

- ・業務や組織の効率化・合理化・改善など働き方改革の実効的な成果を期待する。

(3) 広報活動の充実

- ・HP更新や学習支援クラウドサービス発信の多さが、保護者アンケート 10「学校は、教育情報について、文書、ホームページ、メルマガ等を通じて提供の努力をしている」に9割近い保護者の肯定的回答につながっていると考えられる。
- ・学校説明会の満足度99%は、日頃の熱心な教育活動の成果であると評価できる。

【総括】

めざす学校像を実現するために、今日的な教育課題を含め中期的目標を設定した上で、その達成に向け令和2年度の学校経営・運営を実施し、各教育課題の目標達成度に多少の差異はあるものの総体的に高いレベルで教育目標が達成された。

教育活動としては、アクティブ・ラーニングの取り組みやICT活用などによる授業改善、教師間連携や複数教科間連携による授業づくりなどによるカリキュラム・マネジメントの確立、また、教科活動及び教科外活動を通して「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」の三つの力をバランスよく育成し、社会に出てからも学校で学んだことが生かせる教育が実践され、生きる力を育まれた。

次年度、更に充実した教育活動のもと教育目標の達成度・完成度が一層高まることを期待したい。

②「令和2年度 学校教育自己診断（学校アンケート）結果」について

<生徒アンケート>

- ・「この学校には、他の学校にはない特色がある」 4割の生徒が否定的な回答に関して
→生徒の理解を深めるため、交野高校は専門コースの設置、地域連携や学校行事の充実など大いに特色があることについて生徒への説明機会を増やすなどの工夫が考えられる。
- ・「授業が楽しくわかりやすい」 45%の生徒が否定的な意見について
→授業に関する内容なので重要視したいが、「楽しく」と「わかりやすい」は意味の捉え方によって回答しづらい可能性があるため、文科省の資料にあるように「わかった」「おもしろい」に変更してはいかがか？
- ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」 35%の生徒が否定的な回答について
→レクチャー中心の授業も必要ですが、授業見学をさせていただいて、生徒の意見発表や、グループワークなど十分主体的対話的な授業に取り組まれていると思います。
- ・「学校は、清掃活動が行き届いていて清潔である」 肯定的、否定的意見がほぼ同数について
→自由記述に、4階男子トイレの課題についての記述もありますので、美化活動の見直しの取り組みはいかがでしょうか。
→訪問した時の清掃の雑さが目についた。教室前の雑巾も散乱していた。学問を教える以前に大切なことと思う。
→教職員の意識の問題が大きいのではないかと。生徒が、掃除に来ているかどうかのチェックだけでなく、掃除をしてどうなったか、きれいになったかまでしっかり指導することが重要である。また、掃除をしてきれいになった環境で勉強することの素晴らしさ、きれいにするための大切さをどう理解させて行動させるかが重要である。掃除を通して、人間教育も行うことができる。教員の意識改革が必要と考える。

<保護者アンケート>

- ・「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」「先生はすべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導に当たっている」 否定的回答が20%近くあることについて
→両方とも否定的回答が20%近くあることは、その理由を聞き取って対応が必要であると考えられる。

<教員アンケート>

全体として

- ・「授業において、指導方法の工夫・改善に努めている」に100%の教員が肯定的に回答していることは学校経営において極めて高い成果と言える。
- ・「いじめ（疑いを含めて）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定的意見は100%をめぐすべきであり、否定的な回答があることについては今後の対応が必要である。

③「令和3年度 学校経営計画及び学校評価」(案)について

令和3年度の学校経営計画を令和2年度の内容を継続的に取り組み、その成果や完成度を高めることは、学校経営計画の中期的目標を達成するため適切である。

新型コロナウイルスの影響もあり、教育活動を計画通り進めることが、難しいこともあると思われるが、現在計画されている「令和3年度 学校経営計画及び学校評価」(案)については承認できる。